

2018年度(平成30年度)「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプラン

〈学校用〉

校番(73)番 福山市立 山南 小学校

1 育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)

育成する21世紀型“スキル&倫理観”	自分から進んで取り組む力(主体性)	友達と協力する力(協働性)	自分らしく表現する力(創造性)	みんなのことを考えみんなのために働く力(社会貢献力)
めざす子ども像(21世紀型“スキル&倫理観”を身に付けた児童の姿)	①自分にとってふさわしい目標やめあてを決めて学習できる。②グループやクラスでの話し合いの時に自分の考えや意見を積極的に出せる。③グループや自分で決めた計画にそって、進んで調べたり作ったり発表できる。	④自分の意見やアイデアを友達に納得してもらえるように説明し合える。⑤グループワークの時に、友達と協力して課題やめあてに取り組める。⑥友達の良いところやアドバイスを生かして合せて、より良い考えや作品を作れる。	⑦新しいアイデアや工夫はないかと、いつも自分で考えられる。⑧自分らしい考えを生かして文章を書いたり発表したりできる。⑨「なぜだろう?」「どうしてかな?」といった質問を考えられる。	⑩相手の気持ちを考えながら、互いの存在や立場を尊重しようとする。⑪公共の利益のことを考えようとする。⑫人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じている

2 授業の現状

「自分から進んで取り組む」主体性が課題である。単元末テストの平均正答率:国語(85%)算数(81%)理科(88%),「授業が楽しい」という児童の肯定的評価:国語(82%)算数(71%)理科(87%),「授業が分かる」という児童の肯定的評価:国語(86%)算数(85%)理科(92%)。

転換

3 めざす授業の姿

○学び合い深め合う発問を工夫し、他者と協働して解決する授業。
△国語, 算数, 理科において単元末テストの正答率を各教科, 低90%中85%高80%以上にする。
△標準学力テストにおいて評定1の児童を20%以下にする。

4 めざす授業に向けた取組の具体

4月からの取組	8月末の状況	9月からの取組	12月末の状況	1月からの取組	2月末の状況
○学び合い深め合う発問を工夫する。 ・論点の焦点化, 明確化, そして学習集団としての共有化 ○他者と協働して解決する必然のある授業づくりを進める。 ・ペア・グループ学習の場面の設定と充実	△学び合い深め合う発問の在り方について研修を深められた。主体的な学習となるように工夫することを意識してきたが, 十分ではない。 △単元末テストの平均正答率 低学年(95%) 中学年(87%) 高学年(79%)	○学び合い深め合う発問をさらに工夫する。 ・論点の焦点化, 明確化, そして学習集団としての共有化 ○他者と協働して解決する必然のある授業づくりを進める。 ・ペア・グループ学習の場面の設定と充実	△他者と協働して解決する必然のある授業づくりについて研修を深められた。全校での実践化へ向けて取り組むことが今後の課題である。 △単元末テストの平均正答率 低学年(95%) 中学年(85%) 高学年(78%)	○学び合い深め合う授業づくりを各学年で工夫して進めていく。キーワード ・論点の焦点化, 明確化, 学習集団としての共有化 他者と協働して解決する必然のある授業, ペア・グループ学習	△引き続き他者と協働して解決する必然のある授業づくりについて研修を深められた。全校での日常的な取組としていくことが課題である。 △単元末テストの平均正答率 低(95%) 中(87%) 高学年(79%), 学テスト評定1(25%)

5 取組の結果等

数値は2018年(H30年)調査等の状況

全国学力・学習状況調査(%)

	A問題	B問題
国語	73.0(2.3)	56.0(1.3)
算数	62.0(▲1.5)	43.0(▲8.5)
理科	67.0(6.7)	

「基礎・基本」定着状況調査(%)

*今年度全県未実施 児童質問紙のみ

()は全国平均との差 ▲は平均以下

「基礎・基本」定着状況調査(児童質問紙調査)(%)

内容	国語		算数		理科	
	よく	やや	よく	やや	よく	やや
授業が分かる	38.5	53.8	38.5	53.8	76.9	23.1
学校が楽しい	69.2					

暴力行為発生率・不登校児童出現率 (%) (2)月末現在

暴力行為	0	不登校	1
------	---	-----	---

体力づくり改善計画【広島県体力・運動能力調査から】

県平均以上項目数	前回目標値に対する結果	重点課題	改善する取組内容・方法
(男子) 35 / 48	○全学年を通して, 県平均値かつ全国平均値の達成項目数を58項目以上(60%以上)にする。→達成 ○総合評価がD・Eの児童を15%以下にする。→達成	○「ボール投げ」において, 男子は2つの学年, 女子は4つの学年は県平均値かつ全国平均値を下回っている。記録に個人差も大きく, 投げ方が身に付いていない児童も多い。	○意欲を高め, 体力を高める環境づくり・校内検定基準を設け, 「運動の記録」を作成し体力向上に向けた意欲づけを行う。
(女子) 27 / 48	○「長座体前屈」「上体起こし」「50m走」を県平均値かつ全国平均値以上にする。→全体的に改善が見られるが, 「50m走」が引き続き課題である。	○「50m走」において, 記録の向上が見られたものの男子は2つの学年, 女子は4つの学年は県平均値かつ全国平均値を下回っている。	○「ボール投げ」→体育の授業の導入部分で投動作を取り入れる。「体力づくりカード」を活用し, 家庭でも投動作を継続して行う。 ○「50m走」→体育の導入部分で走の運動遊びを毎時間行う。
目標値	①全学年を通して, 県平均以上項目数を67項目以上(70%以上)にする。②総合評価がD・Eの児童を6%以下にする。③「ボール投げ」を県平均値以上にする。④「50m走」を県平均値以上にする。		

福山100NEN教育アンケート[対象:授業者] (%)

質問項目	よく	当てはまる
仕事にやりがいを感じている	0	100
仕事に充実感がある	0	100

児童生徒アンケート(%)

質問項目	(2)月実施	
	当てはまる	少し当てはまる
授業で考えることが面白い	55	39
自分の考えは認められている	54	39